



# 進路を見つめる

視野を広げて考えよう  
情報を集めて比較しよう  
「選ばない」という選択

青森県立三沢高等学校  
**2 学年通信**  
Vol.04  
令和2年6月23日発行  
文責：池崎

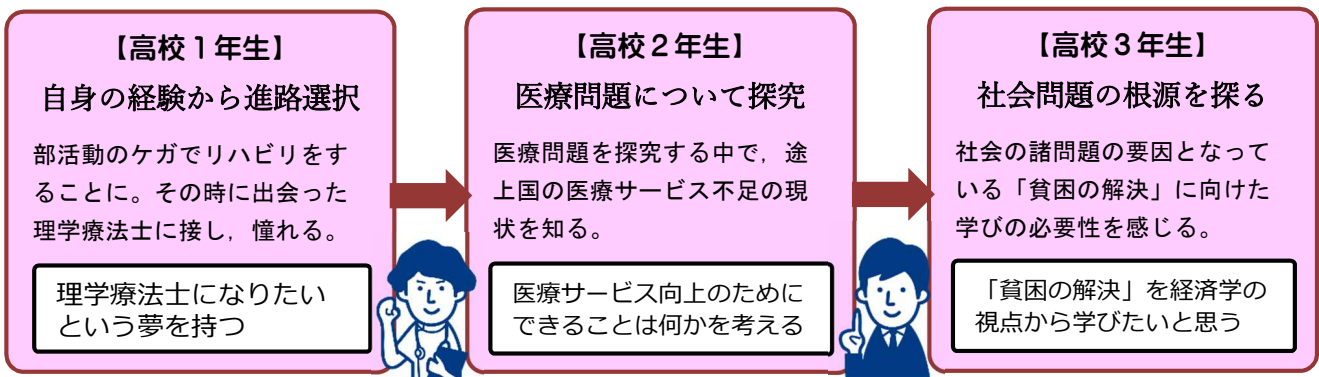
改めて自身の進路を見つめよう。夢中になれることを考えよう。「夢中になれること＝楽しいと思えること」を社会に生かせるかどうかを考えるとよいですね。

さらに、「ぼくは学力や能力がなくて…」とか「わたしは性格がこうだから…」などという理由で、進路の幅を狭くしないでほしいです。「これがしたい」「これが学びたい」という強い思い（自分の進路希望に対する情熱）が大事です。**進路希望は強気で！迷ったら相談！**です。



## 視野を広げて考えると、学びたいことが見えてくる

ある生徒 T さんの進路選択を紹介します。



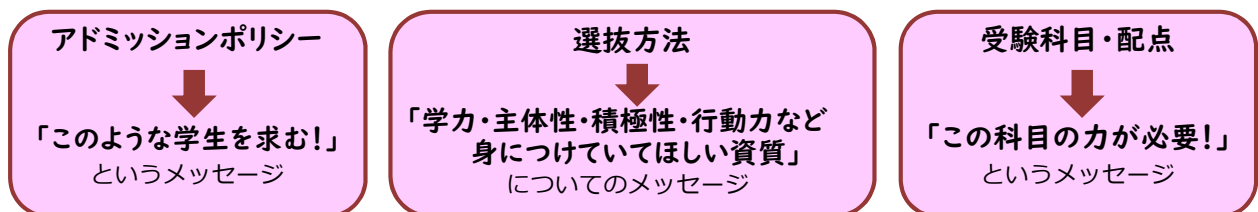
このように T さんは、理型から経済学部へ進学しました。大学でも、貧困の解決や発展途上国への日本の経済支援に関する展示を自主的に企画し、外務省を巻き込んだ活動を行っていました。

それまでの自分の視野【高1】を社会問題に結びつけると【高2】、学びたいことが見えてくる【高3】という例です。いま行っている探究活動を深めていくと、思ってもみない将来が待っているかもしれません。



## 志望の学校の情報を集めて、比較しよう

各学校から出されている情報は、「学校からのメッセージ」ととらえていくのがいいでしょう。



これらのメッセージを読み取り、複数校を比較することで、自分にピッタリ合う学校を絞っていくことができればベストです。

【ここに注意！】今の3年生が受ける入試は、「2021年度入試（2021年度に入学する者を選抜する試験）」です。「2020年度」以前のものとは内容が大きく異なる場合がありますので、よく注意する必要があります。

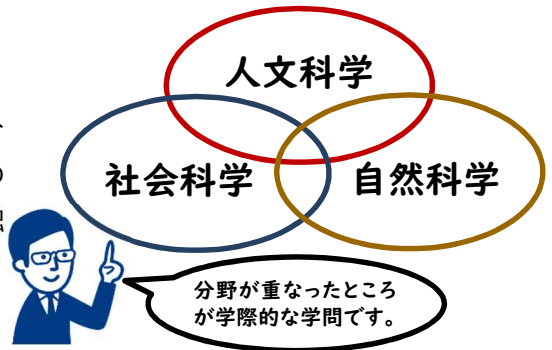


# 決められない人は・・・「決めない」という選び方も

大学を志望する人の中で、いくら考えても志望学部・学科を「決められない」という人もいるかもしれません。そのような人は、次の2つの視点で考えてみるのもいいのではないのでしょうか。

## ①総合・学際系統を考えてみる

総合・学際系統は、特定の学問分野に偏ることなく、理系分野や文系分野を融合させた《学際的》な視点で、現代社会のさまざまな課題を探究する学問領域です。幅広い分野に触れながら、社会に柔軟に対応できる人材の育成を目指す、総合・学際系統を調べてみるはどうですか。



## ②教養からスタートする「遅い専門化」の大学を考えてみる

大学の前期課程で「リベラルアーツ教育」を受け、後期課程で各学部に進んで「専門教育」を受ける。この「後期課程を主体的に選ぶ＝Late Specialization(遅い専門化)」を教育の基本方針とする大学があります。

「リベラルアーツ教育」は、幅広い分野の学問領域を学び、考えを深める教育です。このような教育を受けながら自分の専門分野を決めることができる大学を調べてみるのもいいでしょう。

【東京大学の例】 ▼は各科類の中で進学人数が多い学部。下記以外でも科類の枠を取り払った進学が可能。

前期課程	文科一類	文科二類	文科三類	理科一類	理科二類	理科三類
後期課程	▼法学部 ▼教養学部	▼経済学部 ▼教養学部	▼文学部 ▼教育学部 ▼教養学部	▼工学部 ▼理学部 ▼薬学部 ▼農学部 ▼医学部 ▼教養学部	▼農学部 ▼薬学部 ▼理学部 ▼工学部 ▼医学部 ▼教養学部	▼医学部

## ひとこと「どんな時でも前に進む力を」

みなさんは「帆船」を見たことがありますか。私は横浜で見た「日本丸」という帆船がとても印象に残っています。真っ白な船で、とてつもなく大きかったことをよく覚えています。現代の帆船は、エンジンが搭載されるなどして、風だけを動力にしているわけではありませんが、古代から近代にかけてのものは風だけを動力にしていました。明（みん）の時代の鄭和（ていわ）は、全長100mを超える帆船の船長として、アラビアやアフリカまで行きました。コロンブスは、有名なサンタ・マリア号で未知の海を乗り越えて行きました。このような旅ができたのは、彼らの勇気もさることながら、帆船の素晴らしい性能にもその要因があったと思います。その性能とは、「向かい風でも前に進める」というものです。帆船は、追い風であれば当然スイスイ前に進めますが、向かい風ではその風をうまく使い、風上に向かって進むんです。

向かい風（逆境）でも前に進むことは、人の生き方としても大切な要素だと思います。自分に秘められている可能性を開くことができるからです。前に進む力は、「弱点を克服しよう」とか「嫌なことでも挑戦しよう」など、ひたむきな姿勢で日々を送ることで鍛えられるものだと思います。

「どんな時でも前に進む力を！」 今の皆さんにこの言葉を送ります。